

2 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>品質向上や販路拡大のための研修等を通じ、カカオ及び水産物の市場拡大を行うことにより、事業実施前よりも販売実績が増加する：2年次以降の販売実績増加に向けて、カカオ、水産物の品質向上に寄与する資器材の設置、配置を完了した。これにより、上位目標である小規模農家・水産事業者の貧困削減に向けて準備が整った。</p> <p>(今期事業達成目標) 小規模農家や水産事業者が栽培や加工に関する適切な技術や知識を習得し、農水産物の品質を向上させる</p>
<p>(2) 活動内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハブの運営体制の構築： 計画通り3村にハブを設置すると同時に、運営体制を構築できた。ハブスタッフの選定に当たっては村長を始め、村の各組織と密接に連携して進めた。この選定したスタッフに対して、標準手順マニュアルの作成や基本的な財務管理のトレーニングを行った。 2. ソーラードライヤー等加工技術促進のための技術の導入： 1年目に予定していた農業用ソーラードライヤー5基の設置、冷蔵庫、ジェルパック、保冷ボトルの設置を完了した。 3. 市場ネットワークの拡大に向けた支援： 品質を改善したカカオや、保冷剤を活用した水産加工物の商品化について検討を行った。この過程では地方行政機関等の関係者とも意見交換を行い、将来的な協力に前向きとのフィードバックを得た。 また、3村にて最終成果報告会を行い、現地関係者に対して1年目の成果を報告した。この参加者には地方政府関係者や、ココアタスクフォースチームと言った、市場に関わる関係者も複数参加し、本活動に参加する農水産事業者において、品質の改善された作物が生産されることについて高い興味を示していた。本事業の一環として、コペルニクが支援する社会起業家が複数参加する会議（コペルニクバリオフィスで開催）にも参加し、本事業の成果を共有するとともに、特に農業関連の団体との情報交換を行った。 4. 小規模農家及び、水産事業者の知識向上に向けた研修： 1年目で対象とした3村にて、予定していた研修を実施した。それぞれの村の研修に際しては、活動1にて採用したハブスタッフと共に研修の準備を行った。 農業用・水産機材の活用に関する研修を行い、実施後の調査では各村の参加者の7割程度が研修に対して満足をしていた。また、事前に実施した知識レベルと比べて、事後の知識レベルの方が高くなっている事も確認できた。 上記研修と並行して、天然由来の素材による防虫剤の活用や、持続可能な水産に関する事前調査を行い、2年次に向けた準備も予定通り完了した。 5. 事業成果検証の実施及び管理： 1年目で対象とした3村においてベースライン調査を行い、介入前の状態についてデータを含めて確認を行った。 事業進行に関しては、毎週現地とのオンラインミーティングを行うとともに、フィールドビジットを通して適切に進んでいることを確認した。

	<p>経理処理についても現地会計担当者と協力し、適切な経費利用、計上ができる体制を構築できた。ただ、特にハブ改修にかかる費用を中心に、貴省とのコミュニケーション過程にて当団体側の説明に不十分な点が残し、1年次途中にはご懸念を残す事象が発生した。この点については日本側の人員体制を変更するとともに、当該領域において経験を有する人員を配員する事で、2年目に向けて改善を図った。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>1年目に期待される成果を計画通りに達成できたと考える。各成果の状況は以下の通り。</p> <p>成果1：3村に設置したハブが毎年、継続的に活用される（指標：ハブが研修や会議の目的で平均2回/月以上利用される、測定方法：ハブを使用する際に毎回記録簿への記載を行い利用頻度を測定する） 達成状況：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ハブスタッフが、施設や保管している機器類を使用した際に記録をとり、毎月当団体のパプア拠点に報告する仕組みを構築した ● ハブスタッフの体制構築を完了し、1年次に実施した各研修の準備をハブスタッフの深い関与の元、進める事ができた ● 利用状況の詳細な分析は2年次を通して行う <p>成果2：ハブ等の設備の活用により、収穫後のカカオ豆の品質が向上する（指標：カカオ豆の水分含有量及びカビの発生率がインドネシア国家規格(水分含有量:7-10%、カビの発生率4%以下)を満たす、測定方法：ハブのスタッフに、計測方法を教授することに加え、測定器とデータ収集ガイドを提供する。ハブスタッフはこのガイドに基づき定期的に水分含有量を報告する） 達成状況：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1年次にはカカオの乾燥品質を向上する農業用ソーラードライヤーの設置を計画通りに完了できた ● 設置したソーラードライヤーのテスト運用にて、乾燥品質向上が確認できている ● 2年次にはソーラードライヤーの活用を促進し、品質目標達成を目指す <p>SDGsの視点では、目標1の貧困削減に寄与する準備ができた。インドネシアにおける貧困率は大きく低減している一方で、パプア州は中央政府の介入が難しい地域である事もあり、2022年のインドネシア政府統計局による調査では、引き続き国内で最悪の2割弱の貧困率であった。特に本事業が対象とする地方部では27%を超えており、この改善に向けて2年次も引き続き取り組んでいく。</p> <p>以下の指標については2年目・3年目の活動を通して必要な準備を進める。</p> <p>成果3：ハブの設備を活用して、水産物の干物の品質を向上する（指標：機材設置後の干物の水分含有量がインドネシア国家規格(水分含有量：35-40%)を満たす、測定方法：成果2と同様） 成果4：特に雨季における海藻農家の生産性を向上する（指標：海藻用ソーラードライヤー設置後の海藻の水分含有量が海藻の水分含有量の基準12%を満たす、測定方法：成果2と同様）</p>

<p>(4) 持続発展性</p>	<p>残る事業期間で引き続き支援を行うが、本事業で導入を進める各種資器材利用における中心的な存在となるハブ施設において、その管理態勢を構築できたことで、村民により自律的に運営をしていく体制を構築できたと考える。</p> <p>2年目以降の活動を通して、設置した資器材や研修結果を活用した、高品質で顧客訴求力も高い製品を市場に投入し売上増加が達成できれば、本事業の3年次終了後も自律的にかつ継続的に資器材が利用が期待される。</p>
------------------	---